

1. 教員および授業の概要

①教員名： 高 一 (Ko II)

②担当科目

博士前期課程：北東アジア専門講義 19 (国際関係史)、北東アジア研究指導 I ～IV

博士後期課程：北東アジア超域研究指導 I ・ II、特別研究活動

③教員のプロフィール

一橋大学大学院法学研究科修士課程修了 法学修士

一橋大学大学院法学研究科博士課程修了 博士 (法学)

一橋大学大学院法学研究科契約講師、ソウル大学校国際問題研究所客員研究員、成蹊大学アジア太平洋研究センター研究員、島根県立大学北東アジア地域研究センター嘱託助手などを経て現職。

④所属学会

日本国際政治学会

⑤研究領域や関心をもっているテーマ

冷戦期国際関係史

朝鮮半島をめぐる国際関係史

韓国・北朝鮮の外交史

南北朝鮮関係史

第2次世界大戦終結後の朝鮮半島での政治展開

⑥研究指導方針

院生本人の希望を聞き、十分な討議を経たうえで研究テーマを設定する。学術研究上の意義と社会的意義を兼ね備えた研究テーマになることを目指す。

⑦指導可能な研究テーマ (あるいは過去 (現在) に指導した研究テーマ)

第2次世界大戦終結以降の国際関係史

南北朝鮮 (韓国・北朝鮮) の国際関係

南北朝鮮関係

2. 研究業績リスト

①著書

『北朝鮮外交と東北アジア 1970-1973』信山社、2010 年。

②論文

「朝鮮民主主義人民共和国の対ソ『統一攻勢』と中国ファクター:1949-1950」『一橋論叢』第 127 巻第 1 号、2002 年 1 月。

「『北朝鮮問題』解決への二つの課題」『現代思想』第 35 巻第 2 号、2007 年 1 月。

「1970 年代前半における韓国の対ソ接近策と韓ソ関係」『一橋法学』第 6 巻第 2 号、2007 年 7 月。

「日朝関係と朝鮮総聯:1971-1972」『アジア太平洋研究』第 34 号、2009 年 11 月。

「朝鮮戦争とその後:北朝鮮からみた停戦協定体制」『アジア太平洋研究』第 39 号、2014 年 11 月。

「朝鮮停戦協定の変容と東北アジア:1970 年代国連軍司令部解体をめぐる国際政治から考える」『PRIME』第 41 号、2018 年 3 月。

「朝中関係の復元と停戦協定体制の行方」『現代思想』第 46 巻第 12 号、2018 年 7 月。

3. 学生に対するメッセージ

大学院に在籍し研究の世界に身を置くということは、その道のプロフェッショナルを目指すということになります。当然ながら、自らが選んだ研究テーマに関して、世界をリードしていくのだという気概が求められます。